

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術 I		介護福祉学科/1年	2020/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	谷川 雅世
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 在宅ケアのあり方を理解し、利用者・家族に対しての生活支援の方法を学ぶ。 自立に向けた住環境の整備について学ぶ。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 生活者としての視点から生活支援とは何かを理解し、適切な家事支援を行うことができる。 ニーズに応じて居住環境を整備することができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護職としての実務経験5年 介護現場での経験を生かして利用者を支援する方法を指導する		
時間外に必要な学修				
テキストを読んで予習する 授業で学んだ介護技術を繰り返し練習する				
回	テーマ	内 容		
1	生活支援とは何か	生活支援とは 生活支援のあり方		
2	生活支援の基本的な考え方	ライフサイクル 生活支援のポイント		
3~4	生活支援と介護予防	介護予防とは ICF		
5~6	生活支援とリハビリテーション	リハビリテーションの基本 生活とリハビリテーション		
7~8	生活支援と福祉用具の活用	福祉用具の重要性 福祉用具の種類と選ぶための視点		
9~10	居住空間の整備の意義と目的	生活空間 居住環境の整備		
11~12	安心して快適な生活の場づくり	安全に暮らすための生活環境 高齢者・障害者の住まい		
13~14	多職種の役割と協働	多職種との連携と協働		
15	家庭生活にかかわる基本知識	家庭生活と生活環境		
16~19	家事の介護の意義と目的	自立生活を支える家事 自立に向けた家事の介護		
20~22	家事支援における介護技術	調理の介護、洗濯、そうじ、裁縫、 衣類寝具の衛生管理、買い物、家計の管理		
23~24	他職種の役割と協働	家事の介護における多職種との連携		
25~27	緊急時の対応について	応急手当について		
28~29	ファーストエイド(応急手当)の実際	外傷、骨折、窒息、やけど		
30	まとめ	まとめと試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I 中央法規		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 50.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ		介護福祉学科/1年	2020/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	谷川 雅世
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・身支度の介護 ・移動の介護 ・食事の介護 ・排泄の介護 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズを理解し、ICFに基づいて介護技術を活用できる。 ・自立に向けた介護技術を提供できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護職としての実務経験5年 介護現場での経験を生かして利用者を支援する方法を指導する		
時間外に必要な学修				
テキストを読んで予習する 授業で学んだ介護技術を繰り返し練習する				
回	テーマ	内 容		
1	身じたくの意義と目的	自立した身じたくとは		
2	身じたくのアセスメント	身じたくの一連の流れ アセスメント		
3	整容、衣生活の調整	整容の介護 衣生活の支援		
4	身じたくの介助方法	身じたくの介助		
5	利用者の状態に応じた介護の留意点	身じたくの介護を行うときの留意点		
6	他職種の役割と協働	身じたくの介護における多職種連携		
7	移動の意義と目的	自立した移動とは		
8	アセスメント	移動介護の一連の流れ 移動介護のアセスメント		
9~ 10	安全な移動の介護	移動・移乗の基本的理解 移動・移乗のための道具・用具		
11	移動介助の方法	体位変換の介助 車イスの介助、歩行の介助		
12~ 13	介助の留意点	体位変換の留意点 車イス介助、歩行介助の留意点		
14	安楽な移動	安楽な姿勢・退位を保持する介助		

回	テーマ	内容		
15	他職種の役割と協働	移動の介護における多職種連携		
16	食事の意義と目的	自立した食事とは		
17	アセスメント	食事介助の一連の流れ 食事介助のアセスメント		
18	安全な食事介助	食事の介助をおこなうにあたって 誤嚥の予防のための支援		
19	利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意点	介護の基本原則にのっとった食事の介護 利用者の状況に応じた食事の介助		
20	食事形態	食事の形態 水分摂取		
21	他職種の役割と協働	食事の介護における多職種連携		
22	排泄の意義と目的	自立した排泄とは		
23	アセスメント	排泄介助の一連の流れ 排泄介助のアセスメント		
24	快適な排泄	排泄方法の選択		
25	安全な排泄介助	安全な排泄介助		
26~ 27	尊厳を考えた排泄介助	トイレ・ポータブルトイレでの排泄、パット交換、 尿器・美し込み便器 おむつでの排泄介助		
28	利用者の状態・状況に応じた排泄介護の留意点	頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応		
29	他職種の役割と協働	排泄の介護における多職種連携		
30	まとめ	まとめと試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新・介護福祉士養成講座 7・8 生活支援 技術Ⅱ・Ⅲ 中央法規		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 50.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護の基本 I		介護福祉学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	谷川 雅世
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・自立に向けた介護とは ・介護福祉士とは ・介護の働きと基本的視点 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士の専門性を理解し、求められる職業倫理に従って行動できる。 ・利用者の尊厳を支え、自立を支援するための介護を実践する力を身につける。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護職としての実務経験5年 介護現場での経験を生かして利用者を支援する方法を指導する		
時間外に必要な学修				
テキストを読んで予習する				
回	テーマ	内容		
1	介護とは	介護の成り立ち		
2	生活支援としての介護	介護福祉の基本理念 生活と介護		
3	介護の歴史	介護の概念の変遷		
4	介護福祉士を取り巻く状況	現状と課題		
5	少子高齢化と家族機能の変化	少子高齢化の現状と問題 家族機能の変化		
6	老々介護、介護疲れと虐待	老々介護の現状 虐待と虐待防止		
7	価値観の変化、介護保険制度の改正	戦後の価値観の変化 介護保険制度の制定と改正		
8	介護福祉士の定義	社会福祉士及び介護福祉士法		
9	介護福祉士の専門性	専門職の養成 専門職に求められる役割		
10	介護福祉士の役割と機能	介護現場での専門職の役割 チームリーダーとしての介護福祉士		
11	専門職団体の役割・機能	日本介護福祉士会、介護福祉士養成施設協会 日本介護福祉学会、日本介護福祉教育学会		
12	日本介護福祉士会倫理綱領の理解	介護福祉士の倫理 倫理綱領の理解		
13~ 14	介護従事者の職業倫理	介護実践における倫理		

回	テ ー マ	内 容		
15~ 16	ＱＯＬの考え方	ＱＯＬとは ＱＯＬの向上のための介護		
17~ 18	ノーマライゼーション	ノーマライゼーションの考え方 ノーマライゼーションの実現		
19	尊厳を支える介護	尊厳と介護 尊厳と自立		
20	自立に向けた介護	自立支援とは 自立支援とエンパワメント		
21	個別ケアの具体的展開	利用者の理解 個別ケアの具体的展開		
22	ＩＣＦの考え方	ＩＣＦの考え方 介護におけるＩＣＦの捉え方		
23	アセスメント	介護におけるアセスメント ＩＣＦとアセスメント		
24~ 25	リハビリテーションの考え方	リハビリテーションとは リハビリテーションの実際		
26	病院・施設でのリハビリテーション	病院・施設でのリハビリテーションの方法		
27	在宅におけるリハビリテーション	在宅におけるリハビリテーションの方法		
28	介護予防	介護予防の概要 自立支援と介護予防		
29	リハビリテーション専門職との連携	リハビリテーション専門職との連携・協働		
30	まとめ	まとめと試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新・介護福祉士養成講座３・４ 介護の基本Ⅰ・Ⅱ 中央法規		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 30.0% 60.0%	